

平成31年度 都立紅葉川高等学校 経営報告

1 今年度の取組目標と方策（☆は重点目標）

(1) 学習指導

①目標

思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
<p>ア 授業の改善を図る。</p> <p>ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。そのために、全教科で以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えさせる発問、考えさせる課題 ・文章や図、表の読み取りと分析、まとめ ・文章を読み取り、まとめる。文章を論理的に記述する。 ・文献調べ、インターネット検索等の活動を通じた情報収集と、その情報を分析し、まとめ、発表する機会をつくる。 ・学んだことをアウトプットさせる。 <p>イ) 英語については、4技能の育成を図る。そのため、英語による指導を徹底する。</p> <p>ロ) 教科会を毎月2回開催し、そこで教科指導に関する検討や模試結果等の分析・対策、生徒の学力状況について検討を行い、組織的に授業改善を図る。また、教科主任会を毎月実施し、そこでの議題を教科会で検討する。</p> <p>ハ) 定期考査の共通化及び指導内容の共通化を図る。そのために教科内での検討を十分に行う。</p> <p>ニ) 校内での教員相互の授業見学5回と他校の優れた授業の見学1回を行い、自己の授業改善につなげる。</p> <p>ホ) ICT機器の活用を進める。</p>	<p>ア 授業改善の取り組み</p> <p>ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりへの取り組み状況（2学期授業観察結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能動的活動 37%実施 <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えさせる発問 16% ・考えさせる活動 11% ・記述活動 5% ・調べる活動 3% ・話し合い 8% <p>イ) 英語での4技能育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語での活動 38%実施 ・教員の ALL ENGLISH による指導 50% <p>ロ) 教科会 教科指導関にする検討をした教科は2教科にとどまる。</p> <p>ハ) 定期考査の共通化実施 2教科</p> <p>ニ) 教員相互の授業見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での見学 ほとんどの教員が実施、しかし観察票にまとめ、相互の授業改善への取組少ない。 ・他校での見学 19% <p>ホ) ICT機器の活用 50%</p>
<p>イ 学力の向上を図る。</p> <p>ア) 生徒の理解状況や習熟状況を個々に把握し、その状況に応じた個々への指導を徹底する。上位層はさらに伸ばし、下位層は達成感をもたせる工夫をする。</p> <p>イ) 模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を行う。</p> <p>ロ) 家庭学習を前提とした授業づくりを通して、家庭学習の習慣をつけさせる。</p> <p>ハ) 私語等をなくし、授業に集中させる。</p> <p>ニ) 学習の仕方、授業の受け方を身に付けさせる。そのために入学時に学習の仕方に関する指導を充実する。</p> <p>ホ) 課題は自分でしっかり最後まで取り組むことを徹底する。</p> <p>ヘ) 生徒の中学校までの基礎的学力の不足は、1年夏休みまでに理解させる。</p>	<p>イ 学力の向上</p> <p>ア) 学力に応じた指導と学習習慣の育成（取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解状況に応じた講習や課題等を実施 ・課題や小テスト等の工夫で、家庭学習を促した（結果） ・学力上位層と下位層で学習意欲が異なり、差が大きい。 ・下位層は学習習慣がほとんどない。 <p>イ) スタディサポート結果報告会を実施し、その中で各教科が課題や対策を検討、報告。</p> <p>ロ) 私語等は昨年度より大幅に減少したが、主体的な学習姿勢は弱い。</p> <p>ホ) 自学自習のための「紅葉川学力向上プログラム」を作成し、生徒に確認させた。</p>

<p>ウ 新教育課程の編成を行う。</p> <p>ア) グランドデザインに基づく指導内容を教科横断的に検討する。</p> <p>イ) ルーブリックを各教科で作成し、評価の在り方を見直す。</p>	<p>ウ 新教育課程の編成</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校グランドデザインに基づき、各教科の指導内容を教科横断的に検討し、各教科のルーブリックを作成した。 カリキュラムの編成を検討中
<p>エ 探究活動を推進する。</p> <p>ア) 「人間と社会」及び「総合的な探究の時間」の内容を検討し、推進する。</p> <p>イ) 各教科においても探究活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年総合的な探究の時間の探究計画を立案し、1年間をかけて探究活動を実施。 NPO、近隣の大学や施設などと連携し、進めた。
<p>オ 学力の土台となる力を育成する。</p> <p>ア) 読書習慣を身に付けさせる。そのため、読書をさせる取り組みを行う。</p> <p>イ) 新聞を読む習慣を身に付けさせる。そのため、新聞を授業等で活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビブリオバトルや読書感想文コンクールを実施し、読書活動への関心を高めた。 東京TGG英語村で学習を実施（1年）

③課題と改善策

- ア 学力の差が大きく、学力によって学習意欲に大きな差がある。個々の生徒の学力に応じた指導の充実を図る必要がある。そのためにも。来年度導入される学力別学習のシステムを教科担当が授業で活用し、生徒に家庭で積極的に取り組ませる指導が重要である。
- イ 思考力・表現力・読解力が弱く、その指導を組織的に検討し、強化する必要がある。
- ウ 受け身の学習姿勢が目立ち、授業中に主体的に学習する姿勢を身に付けさせる必要がある。
- エ 学習時間が少なく、定着や授業内容の深化等に問題がある。自宅学習をさせる工夫を組織的に行う必要がある。
- オ 英語の授業で全教員が4技能育成の効果的指導に取り組む必要がある。
- カ ICTを利用していない教員が約半数いる。また、ICTが十分に生かされていない場合がある。今後は、ICTの利用促進とともに、その活用方法について検討することが重要である。
- キ 教科会が組織的に生徒の学力向上や大学入試対策等を検討する場として機能していない。今後は、教科主任を中心とした教科会の教科指導検討機能を向上させ、組織的な授業改善を図らなくてはならない。
- ク 来年度はカリキュラムの編成を完成させ、評価の検討を行う必要がある。
- ケ 読解力、論理性に課題があり、その育成に欠かせない読書をする割合が低い。読書や新聞を読む習慣の涵養が重要である。
- コ 今年度1年が3年になったときに学習する「総合的な探究の時間」の計画を検討する必要がある。また、2年次に探究の機会がないので、各教科で探究を意図的にさせる取り組みを導入することが必要である。

(2) 進路指導

①目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。

②方策と取組結果

方 策	結 果
<p>ア 計画的な進路指導の充実</p> <p>ア) 新大学入試を見据えて、3年間の時期ごとに大学受験等で必要な姿勢や状況を明確にし、それに基づき3年間の進路指導計画を見直すとともに、データによる指導を中心に行う。</p> <p>イ) 模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い、活用する。)</p> <p>ウ) 他学年の効果があつた取り組みを継承する。</p>	<p>ア 計画的な進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> データを用いて大学出願検討会を実施し、6月の面談週間に活かした。 4年制大学進学率 50.6% (H30 46.8%) 進学希望者の就職率 100% スタディサポートの度に毎回、報告会を実施。結果を担当教員が分析し、対策を立て、報告会で共有した。 大学入試改革の影響で、生徒の不安が高まり、推薦・AO入試を活用する生徒が大幅に増加した。 <p>一般受験 16% (H30 26%)</p>

<p>そのために、進路指導部がリードする。</p> <p>エ) 進学指導研究校の制度を活用し他校の良い点を検討し、本校の進路指導に活かす。</p>	<p>推薦・AO 84% (H30 74%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中堅校以上の大学の受験は苦戦した。 日東駒専7名 (H29 15名) ・3学年は毎朝、放課後に勉強会を実施。
<p>イ 生徒に進路実現のために努力させる</p> <p>ア) 早期に進路目標をもたせる。そのために入学時の初期指導を充実するとともに、大学等への理解を深めさせ、2年では受験勉強の体制を開始させる。</p> <p>イ) 家庭学習時間を増加させる。そのため、自習室の活用や朝学習、放課後勉強会等の学習機会を学校でもたせる。</p> <p>ウ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組ませる。</p>	<p>イ 生徒に進路実現のために努力させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方等を教科別にまとめた「紅葉川学力向上プログラム」を作成し、活用した。 ・1年：11月大学出張講義実施 ・2年：7月進路別講演会、11月分野別が「ダンス」、3年0学期進路別が「ダンス ・オープンキャンパス参加（全年） ・自習室の開設 ・2部活で部活動単位での勉強会実施 ・1部活で顧問による考查結果への指導実施
<p>ウ 個々の生徒に応じた指導の徹底</p> <p>ア) 生徒自身に自己の学力の推移をデータを活用して自覚させ、計画的に学習させる。また、3年間の進路実現のための計画を生徒自身に立てさせ、実行させる。</p> <p>イ) 生徒の学力に応じた目標と行動計画を持たせる。上位層についてはさらに高い目標をもたせるように集めて、指導する。</p> <p>ウ) 長期休業日中や放課後の講習を通して生徒の学力に応じた学習をさせる。</p> <p>エ) 家庭学習を毎日最低1時間行わせる。</p> <p>オ) Classiの有効な活用の仕方を進路指導部が中心に検討し、早期に導入する。</p>	<p>ウ 個々の生徒に応じた指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力状況が今までより詳細に把握できるように、2年模擬試験の内容を見直し ・来年度は1・2年模擬試験、全員受験を2回に増加 ・上記に伴い進路指導計画の見直し ・個々の学力に応じた指導を充実するためのシステムの来年度導入決定 ・5月3年ケース会議実施、6月3者面談に活用 ・長期休業中の講習 31講座 ・6月・10月の面談週間で全員面接、3年は3者面談実施 ・家庭学習時間（1時間以上）平日 1年 27.7% (H30 21.5%) 2年 18.3% (H30 21.0%)
<p>エ 推薦入試やAO入試への対応を計画的、組織的に行う。</p> <p>ア) 進路指導部を中心に面接や小論文指導を全員体制で行う。</p> <p>イ) 1学年時から面接や小論文作成に対応できる力を計画的に育成する。</p>	<p>エ 推薦入試やAO入試への計画的、組織的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦受験者の面接・小論文指導を進路指導部が実施。 ・1年：3月に小論文模試を実施予定だったが、新型コロナウイルス対策で中止。
<p>オ 新大学入試への対応</p> <p>ア) 「総合的な探究の時間」「人間と社会」の内容や指導方法の検討を行い、充実した探究活動を行う。また、他教科でも探究活動に取り組ませる。</p> <p>イ) 探究学習の実施時期と内容の見直し、指導方法の検討を行う。</p> <p>ウ) 全教育活動を通して、小論文やプレゼンテーション力を育成する。</p>	<p>オ 新大学入試への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年でeポートフォリオ活用 ・新大学入試に関する説明会を生徒・保護者・教員それぞれに対して実施 ・大学入学共通テスト早期対策模試の受験（2年） ・「人間と社会」の代替として「総合的な探究の時間」を行い、探究する方法等を学ばせた。 ・GTECを1・2年は全員受験。3年は進路に応じて受験。
<p>カ キャリア教育の充実</p> <p>ア) 働くことの意味や生き方を考えさせ、それを高校生活の目的意識につなげる。</p> <p>イ) 自己理解を深め、早期に自己の生き方への目標をもたせる。</p> <p>ウ) 年金や税金、選挙、消費者問題などへの理解を深めさせ、社会に必要な力を育成する。</p>	<p>カ キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」でNPOと連携して、働く意義について、探究的に学習した。 ・1年現代社会で模擬選挙実施 ・租税教室（1年）、主権者教育講演会（2年）を3月実施予定であったが、新型コロナウイルス対策で中止。

<p>キ 保護者の理解と連携を深める</p> <p>ア) 保護者に大学受験や進路指導に関する情報提供をこまめに行う。</p> <p>イ) 3者面談を年に1回は行う。</p>	<p>キ 保護者の理解と連携を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者会を年間2回実施、そこで進路について毎回説明。 保護者対象に新大学入試説明会実施。 面接週間で希望者には3者面談実施。
--	---

③課題と改善策

ア これまで模擬試験の全員受験は年間1回で、そのデータを用いて進路目標を待たせたり、学習計画を立てさせたり、特に進路指導に活用することができなかつた。その結果、進路の目標をもつのが遅く、力を伸ばせずにいた。また、安易に進路目標を変えていた。早期に進路目標をもたせ、その目標の実現のために3年間努力を続けるように、模試結果の全員受験と3年間継続的に進路指導に活用の工夫が必要である。

来年度から模試の内容を生徒の学力に適合したものに換え、全員が年間2回受験するように変更することとした。今後は、この模試結果を進路指導に生かすべく、進路指導部がリードしてデータによる進路指導の体制を構築していくことが喫緊の課題である。

イ 来年度から大学入試が変わり、測られる学力が変わる。その変化に対応できる思考力、判断力、表現力や主体性の育成と学力水準の向上が欠かせない。そのために、家庭での学習習慣を身に着けさせることが、重要である。また、読解力の向上も喫緊の課題である。

ウ 学力差が大きく、それぞれに応じた指導が難しい状態である。来年度から学力に応じた学習ができるシステムを導入するので、それを授業でも活用し、家庭学習でも活用させ、個々の学力に応じた指導を強化することが大切である。

エ 今年度は現行の大学入試最後の年ということで、受験生の不安が高く、推薦やAO入試で早期に決めようとする生徒が多かった。しかし、その選択は場当たりのであった。推薦やAO入試、一般のどれを受験するか、受験先の大学をどのように選択させるか等の指導のあり方を検討しなおす必要がある。

オ 新大学入試に向けて、進路指導計画を見直し、全教員で進路実現をさせる体制づくりが必要である。そのために、進路指導部のリーダー性を高め、本校の教育活動全体の見直しをけん引する役割を担うことが大切である。

(3) 生活指導

①目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
<p>ア 規律指導の徹底</p> <p>ア) 授業規律を守らせる。私語等はさせず、授業に集中させる。</p> <p>イ) 立ち番指導を全教員で行い、身だしなみ指導を全員で徹底する。</p>	<p>ア 規律指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 立ち番指導を毎朝、身だしなみ指導週間を4回設定し、指導し、身だしなみはほとんど整っている。 授業中の私語は大幅に減った。 チームが鳴ってから教材を準備する生徒がほとんどいなくなり、チャイム開始が徹底された。
<p>イ 問題行動の未然防止</p> <p>ア) 情報モラル教育の充実で、SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。</p> <p>イ) 年間3回いじめアンケートを実施し、その記述内容から問題を確認し、早期に解決を図る。</p> <p>ウ) 保護者や教員間、スクールカウンセラーとの連携を密にし、生徒の情報を早期に把握し、全員で共有する。そのために、生徒に関する情報を共有する機会をつくる。</p>	<p>イ 問題行動の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS紅葉川ルールを生徒会が主体となって生徒の意見をまとめ、改訂した。 年間3回のいじめアンケートを実施。気になる記載についてはその都度、担任が面接し、確認した。 保護者や教員、スクールカウンセラーとの間の連携を密に取ることで、問題解決等につながった。 毎月、教員、スクールカウンセラーで情報交換を行い、生徒に関する情報の共有を図ることで、早期の問題解決につながった。 生徒に関する情報を随時、全教員で共有した。

<p>ウ 時間管理能力を育てる</p> <p>ア) 最終下校時間（部活動、居残り学習、その他）明確に定め、生徒に守らせるよう指導を徹底する。</p> <p>イ) 病気等のやむを得ない理由以外の遅刻をさせない。</p> <p>ウ) 集会等の時間を守らせる。</p>	<p>ウ 時間管理能力を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期から朝の登校時間を8:30に定め、8:30にHRを実施することにした。その結果、遅刻が大幅に減った。 ・部活動による最終下校時間も7:30に定め、下校させるようにした。 ・集会は開始予定時間の5分前に整列が完了するようになった。
---	--

③課題と改善策

- ア 身だしなみ指導を生活指導部が中心になって行い、全体的に落ち着いている。今後も全員体制で継続した指導を続ける必要がある。
- イ 登校時間を8:30に定め、8:30にHRを実施することで遅刻が大幅に減った。また、部活動の最終下校時間を定めたことで、時間へのルーズな姿勢が減り、時間管理能力が高まった。
- ウ SNS等による問題行動をなくし、ゲームによる生活の乱れを防ぐために、情報モラルの指導をあらゆる機会を通して行う必要がある。
- エ 登校時とお昼休みの立ち番に立たない教員が見られた。今一度その重要性を全教員に再認識させ、体制の立て直しが必要である。

(4) 特別活動・部活動

①目標

学校への帰属意識や人間関係形成能力、自己肯定感、主体性を高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
<p>ア 生徒の主体性を育む</p> <p>ア) 行事等において、生徒の委員会を通して、生徒に考え行動させる指導を行う。</p> <p>イ) 生徒が主体となって活動する機会を多くする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実行委員会を中心に準備を進めたことで、生徒全体の主体性が上がり、充実した行事になった。 ・実行委員会が各行事の改善を図った。その結果、文化祭の来場者が過去最高になった。また、合唱祭、体育祭の保護者来校数が過去最多になった。 ・3月の球技大会がコロナ対策で中止となった。
<p>イ 部活動の活性化を図る</p> <p>ア) 部活動加入率を高める。</p> <p>イ) 外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を実感させる。</p> <p>ウ) 硬式野球部のスポーツ特別強化校の指定を励みに他の部活動も一層の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率87% (H30 86%) ・部活指導員が7名となり、各部活動の技術が確実に向上した。 ・複数の部活動が高い成果を上げ、全体的に力が向上した。 <p>野球部：東東京大会ベスト16、サッカー部：都大会進出、陸上部：都大会出場等</p>
<p>ウ 部活動の適性化</p> <p>ア) 「東京都教育委員会部活動の在り方に関する方針」に基づき、本校の部活動の適性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休養日の設定（最低、平日1日、週休日1日） ・活動時間2時間程度、週休日や長期休業日中は3時間程度 ・学校活動方針の策定と各部活動の年間および毎月の活動計画の作成とHPでの公開 <p>イ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。</p>	<p>ウ 部活動の適性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休養日を設定した ・練習内容や練習計画を見直し、効率的な活動を行った。
<p>エ 部活動と学習との両立ができるように、生活指導部と部活動顧問、教務部、進路部が連携して、システムをつくり、両立をさせる。</p>	<p>エ 部活動と学習との両立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2部活で部活動単位での勉強会実施 ・1部活で顧問による考查結果への指導実施

オ 地域との交流活動の活発化 ア) 地域行事や施設等への参加や手伝いを行う。 イ) 特別支援学校や小・中学校との交流活動を行う。	オ 地域との交流活動の活発化 ・地域の町内会のお祭りの手伝いをした。 ・近隣の小学校で水泳指導を行った。
カ オリンピック・パラリンピック教育の推進 ア) アスリートとの交流活動を年間1回以上実施 イ) 特別支援教育学校との交流活動を年間1回以上実施 ウ) 海外の人との交流活動を年間1回以上実施	カ オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・2月に車いすラグビーのパラリンピアン講演と体験教室を実施した。 ・3月、米国大使館の方の講演と日本文化紹介を行う予定であったが、コロナ対策で中止となった。

③課題と改善策

- ア 生徒を中心に行事を準備、運営することで、生徒の自主性と自覚が成長した。今後も生徒の自主性を育成するための指導を継続することが大切である。
- イ 部活動の力が全体的に上がり高い成果を出す部活動が増えてきた。それに従い、加入率や活動内容も活発になった。
- ウ 7名の部活指導員の存在は、部活動の力の向上に加え、教員の業務負担の軽減にもつながり、今後は顧問として、一層部活指導に力を発揮してもらうことが望まれる。
- エ 地域や特別支援学校、小・中学校との交流等の機会を多くもつようにすることが望まれる。

(5) 安全・防災・健康教育

①目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 防災訓練の充実	ア 防災訓練の充実 ・避難訓練3回実施。4回目を3月に実施予定であったが、コロナ対策で中止。 ・宿泊防災訓練では体験型の訓練を行った。 ・危機管理マニュアルを見直し、策定した。
イ 交通事故の防止 ア) 学校周辺等の自転車の乗り方の指導を徹底する。 イ) 自転車通学者の自転車保険加入の義務化を徹底する。	イ 交通事故の防止 ・自転車通学者の自転車保険加入の義務化により、全員加入済。
ウ 健康教育の充実と健康管理及び教育相談体制の強化 ア) 健康課題に関する生徒及び保護者への啓発活動の充実 イ) 怪我、疾病、家庭問題等、生徒が抱える問題を全員で共有する機会をつくる。 ウ) 怪我、疾病等の発生時での速やかな管理職への報告と保護者との連携の徹底。 エ) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、情報を全員で共有する機会をもつ。	ウ 健康教育の充実と健康管理及び教育相談体制の強化 ・毎月、教員、スクールカウンセラーで情報交換を行い、生徒に関する情報の共有を図ることで、早期の問題解決につながった。 ・スクールカウンセラーによる教育相談に関する校内研修を2回実施。 ・生徒情報を毎朝の打ち合わせで速やかに全教員で共有 ・毎月、保健便り発行

③課題と改善策

- ア 相談体制の充実を図り、早期に様々な問題を解決できた。今後も、この体制を継続していくことが大切である。
- イ 登校途中の自転車の事故が数件あった。登校時は余裕をもって家を出られる時間での起床を促すことと、自転車の乗り方の指導を今後も繰り返していく必要がある。
- ウ 今年度、台風で混乱が見られた。台風等、災害に対する地域と連携した学校の防災体制を検討する必要がある。
- エ 老朽化により空調が効かず、今年度も教室で熱中症になる生徒が発生した。空調設備の取り換えをしていただくことになったが、今後、生徒が空調設備を大切に使い、故障等につながる行動をさせないような指導が欠かせない。

(6) 募集・広報活動

①目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携、中心になって組織的な広報活動を全教職員で行い、本校の特色を中学生に広く周知する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
<p>ア 情報発信の強化</p> <p>ア) ホームページのリニューアルと更新頻度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの構成及びトップページの見直し ・行事や集会、生徒の日常の様子を週に2回以上更新する。 ・部活動の取組を少なくとも毎月1回更新する。 <p>イ) 保護者への情報発信の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への通知文等をHPに掲載 ・保護者連絡メールの方法を効率化するとともに情報の提供内容を充実する。 <p>ロ) 情報発信ツールの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内、学校紹介動画等の見直し 	<p>ア 情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行ホームページの更新頻度が大幅に向上した。特に行事、部活動に関するものの更新頻度が高く、本校生徒の様子を効果的に発信することができた。 また、保護者への通知文の掲載など、保護者への情報発信機能も高まった。 ・都教委の新規事業のホームページのリニューアルに応募し、担当業者とともに作成し、公開を待つ状態である。 ・学校案内の全面リニューアルを行い、6月の見学会に配布した。 ・説明会等で用いる学校紹介動画を写真部の生徒を中心に新規に作成した。
<p>イ 募集対策の強化</p> <p>ア) 塾および中学校への訪問を全員で行う。また、生徒には出身中学校と塾に訪問させる。</p> <p>イ) 校内での説明会や授業公開で来校した中学生や保護者に好印象を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内掲示を見直し、生徒の活動がより伝わるようにする。 ・トイレを始め様々な個所の美化と明るい雰囲気をつくる。 ・学習指導及び進路指導への信頼感をもたせる。 ・外部者に対する生徒の挨拶を徹底する。 ・授業公開で教員の優れた指導や生徒が集中して学習する姿を理解してもらうようにする。 <p>ロ) 外部説明会及び本校での説明会等に全員で対応する。</p>	<p>イ 募集対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塾および中学校について、生徒に出身中学校と塾を訪問させ、本校の様子を報告させた。 ・校内環境の整備をした。 △校内掲示の随時交換と生徒作品掲示・展示 △トイレの印象を明るくするために、花を置き、随時交換。 △説明会前日に大掃除を行い、チェック表で保健委員が確認。 ・説明会の説明およびスライドの内容を総務部門が中心になって確認、編集した。 ・説明会や見学会で生徒に司会や説明、受付、誘導等をさせ、生徒の様子を実感してもらった。 <p>【入選応募倍率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試応募倍率 3.47倍 (H30 2.87倍) ・一次応募倍率 1.65倍 (H30 1.48倍)

③課題と改善策

ア 学校案内や学校紹介動画、塾や中学校訪問、説明会運営の改善、校内美化、ホームページの高頻度更新等、募集対策が充実され、本校の魅力を中学生・保護者に伝えることができた。その結果、推薦入試及び一次学力検査の募集倍率が近年にない高倍率となった。特に2月6日の段階の男子の応募倍率は2倍を超える高倍率となった。

イ 今後も日ごろの学校生活を充実し、在校生の満足度を高めるとともに、広報・募集活動を改善し続けることが大切である。

(7) 環境教育・学校設備

①目標

環境教育を推進し、生徒の環境意識を育てるとともに、教育環境を整える。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア トイレの美化対策を徹底する。	ア トイレの美化の徹底 ・季節の花を飾るなど、明るい印象になるように工夫した。 ・大掃除のときは、チェック表で保健委員が確認した。
イ 破損個所は速やかに修理する。	イ 破損個所の速やかな修理 ・破損個所は速やかに修理をした。
ウ 校内の不用品の整理や廃棄を進める。	ウ 校内の不用品の整理や廃棄 ・不用品の廃棄や整理を適宜進めた。 ・経営企画室、美術室、保健室、教材室の整理により、新たなスペースが確保できた。
エ 校内掲示を見直し、明るく、生徒の活動がより伝わるようにする。また、過去の掲示は撤去する。	エ 校内掲示の改善 ・校内掲示を随時交換し、生徒の作品を掲示・展示した。

③課題と改善策

- ア ごみ捨てやトイレの美化については校内で意識づけができてきた。しかし、クラスによって教室の清掃や整理の状況に問題がある。来年度は、教室清掃・美化の徹底を図る必要がある。
- イ 昇降口の掲示板上に部活動紹介の掲示スペースの活用や、生徒作品等の校内展示を一層進めて、生徒の元気な様子を発信することが望ましい。

(8) 学校経営

①目標

社会の変化に対応した教育活動をPDC Aに基づき、組織的に行える学校づくりを行う。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境をつくる。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 人材育成 ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。その際、前例踏襲型ではなく、課題解決型に仕事を行う。そのため、課題の発見と解決に努める。 イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。 ウ) 主幹教諭は副校長の補佐及び学校改善の推進役の役割を果たす。	ア 人材育成 ・今年度教務部・進路指導部・生活指導部・総務部門の主任は全員初めて分掌主任を担当する教員であった。しかし、4主任のリードでこの4つの分掌の機能が高まり、学校運営が円滑になり、学校改善が図られた。 ・新主幹は教員のリーダー、副校長の補佐としての役割を果たした。
イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は50分を上限とする。) ・事前の調整を十分に行う。 ・発言内容は要点を絞り簡潔に行う。 ・事前に資料を配布し、問題点等は事前に調整する。 ・スライドなどを用い、紙の資料配布を少なくする。 イ) 紙の印刷物を削減する。 ・ネットワークやメール機能を活用する。 ウ) 業務分担が偏らないように、また分掌全体で対応できる体制をつくる。 ・情報の共有化の徹底 ・担当者が不在時も他者が対応できる体制をつくる。	イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ・職員会議をはじめ会議の効率的な運営を行い、会議は50分以内に終え、特に職員会議は30分以内に終了した。 ・ネットワークやメール機能を活用し、印刷、紙配布を減らした。 ・分掌の副主任を設定したことで、分掌運営が円滑になった。 ・校務分掌の見直し(総務部門の新設と保健部の生活指導部との統合)と委員会の整理(委員会の削減)を行った。その結果、担当が不明確な業務についても、責任をもって行われるようになり、学校運営が活性化した。また、無駄な会議が減り、業務が円滑になった。

<p>・分掌の副主任は主任を補佐し、共に分掌の課題解決にリードする。</p>	
<p>ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす</p> <p>ア) 部活動で外部顧問を活用し、指導を必要最少の人数で行う。</p> <p>イ) 週休日の指導や外部への引率は必要最少の人数で行う。</p> <p>ウ) 部活動の練習の在り方を「東京都教育委員会部活動の在り方に関する方針」に沿って見直す。</p> <p>エ) 週休日等に勤務した場合は週に1回は振替休業日を取得する。</p>	<p>ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7名の部活動指導員を活用し、教員の負担軽減を図った。 ・4月から毎月、勤務時間以外の在校時間が80時間以上の教員に対し、産業医面接の前に校長面接を行った。 ・勤務時間以外の勤務時間が昨年度より減少 1カ月平均 教員 39.2時間 (H30 45.3時間) 行政 28.1時間 (H30 37.9時間) 1カ月平均 60時間以上 5名 (H30 11名)
<p>エ 服務事故やミスを起こささないで、信頼される学校をつくる。</p> <p>ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学金等の個人情報の取り扱いはルールに基づき注意して扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新のマニュアルや規定を確認する。 ・複数人で複数回の点検を原本と照合する。 ・修正前のファイルを用いる等をしないように適切なデータを用いる。 ・個人情報指定された場所に保管する。 <p>イ) 部費の管理をルールに基づき、適切に行う。</p> <p>ウ) 体罰・暴言等、信用失墜行為を行わない。</p>	<p>エ 服務事故やミスを起こさない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答案や成績資料、調査書、奨学金、就学金等の個人情報の取り扱いはルールに基づき注意して扱うことや、複数名による複数回確認等を徹底した。 ・教務規定の見直しを行い、個人情報に関わるミスの発生防止につながった。 ・部費の管理については適正に管理する体制ができた。 ・些細な言動でも大切に、人権意識の醸成を図った。
<p>オ 適正な予算執行と施設管理の徹底</p> <p>ア) 会計処理は、間違いなく、迅速に行う。</p> <p>イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に間違いなく行う。</p> <p>ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応する。</p>	<p>オ 適正な予算執行と施設管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料や学校徴収金の管理は適正に行った。 ・施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応した。 ・老朽化して冷却能力がなくなった空調機の更新をすることになった。

③課題と改善策

- ア 若く経験の少ない教員が多い職場なので、様々な業務に挑戦させ、今後も意欲を伸ばしながらも、指導を繰り返すOJTを徹底し、人材育成を図ることが欠かせない。
- イ 部活動指導や教材研究に熱心で、在校時間が長くなりがちな教員が多い。来年度は法令によって上限時間の義務化が図られるので、様々な工夫や仕事の進め方の一層の見直しと意識改革が必要である。
- ウ 部活動の在り方を見直し、部活動指導員を顧問として、仕事を全面的に任せる意識をもたせ、時間的負担の軽減を図る必要がある。
- エ 今後も体罰・暴言の防止、個人情報の適正な管理等を徹底し、服務事故を行ない環境づくりが必要である。

(9) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	H31年度	H30年度
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	78%	85%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	81%	83%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	81%	82%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	86%	89%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	85%	86%

② 生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	H31年度	H30年度
ア 4年制大学進学率	55%	51%	47%
イ 日東駒専の合格者数	20名	7名	15名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	5名以上	0名	5名

③ 生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	H31年度	H30年度
ア 推薦による入選の応募倍率(男女平均)	3.0倍	3.74倍	2.87倍
イ 学力検査による入選の応募倍率(男女平均)	1.55倍	1.65倍	1.48倍

④ 生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	H31年度	H30年度
ア 1・2学年家庭学習時間：平日1時間以上の割合 (第2回スタディサポート結果)	50%	1年28%	1年22%
		2年18%	2年21%
イ 部活動加入率(10月1日時点)	90%	87%	86%